

主な事業

広島市郷土資料館では、郷土広島の歴史に関する資料の収集・保管・展示などを行っています。

郷土資料の展示・紹介

- ・常設展示…広島伝統的地場産業、昔の暮らしについて現物資料やパネルで紹介
かき のり やまもも
 牡蠣・海苔養殖、山藁織り、太田川の舟運、生活道具など
- ・企画展示…広島歴史・民俗などに関する様々なテーマで開催
- ・資料解説書、調査報告書、展示図録、郷土資料館だより等の編集・刊行

普及事業

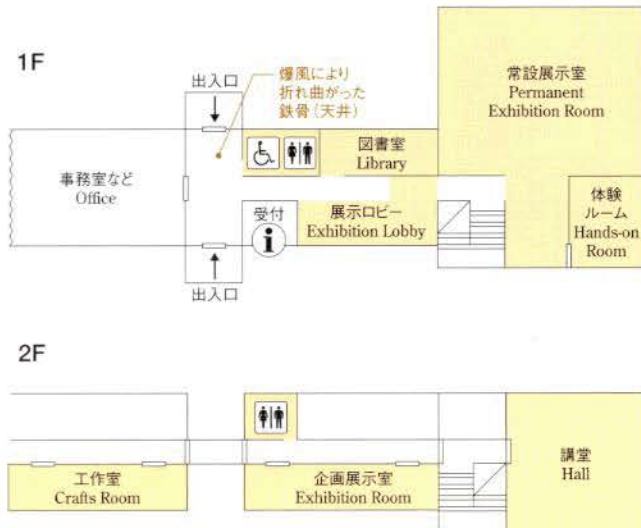
- ・年中行事や遊びなど“昔の暮らし”を実感できる事業の開催
- ・教室事業…からくり工作や藍染め、郷土料理作りなどの開催
- ・体験用資料の貸出

図書の開架

- ・歴史や民俗などに関する図書の閲覧、図書資料の複写（有料）

ミュージアムショップ

- ・調査報告書・展示会図録などの頒布、昔懐かしのグッズなどの販売



HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS

Hiroshima City Museum of History and Traditional Crafts, which opened on May 11th 1985, is a humanities museum that focuses on the research of Hiroshima's traditional industries and its history and folklore, as well as the collection, categorization and display of related materials.



▲原爆の爪跡

爆心地から3.2km離れているこの建物は、火災や倒壊は免れたものの、爆風により窓ガラスは割れ、北側屋根の鉄骨も全て下向きに折れ曲がりました。現在ではその内の2本を保存・公開しています。

◀煙突の基礎 (宇品西公園内)



イギリス積みのレンガ (一部保存)



缶詰工場内部（肉詰め作業）昭和15～17年頃 内山滋氏提供

- 「糧」…兵士の食べる食糧
- 「秣」…軍馬の飼料
- 「廠」…工場や役所



糧秣廠は、主に兵・馬の食糧調達や補給、研究業務などを担当する機関でした。

明治44年(1911)竣工時の庁舎と缶詰工場【株大林組蔵】
 Army Provisions Depot when completed
 (Courtesy of Obayashi Corporation)



きゅうりくぐんりょうまつししょうたてもの 旧陸軍糧秣支廠建物

広島市指定重要有形文化財

現在の広島市郷土資料館の建物は、明治44年(1911)に宇品陸軍糧秣支廠の缶詰工場として建設されたものです。ここでは軍用の牛肉缶詰が製造されていました。

明治27年の日清戦争以降、広島は兵士や軍需品などを送り出す、戦争の後方支援のための基地と位置づけられました。そのため、糧秣支廠以外にも兵器支廠・被服支廠などのいろいろな軍の施設が設置され、「軍都」としての役割を担っていきました。

明治30年、宇品海岸に陸軍中央糧秣廠宇品支廠が設置され、同35年には陸軍糧秣廠宇品支廠、同40年には宇品陸軍糧秣支廠と改称されました。明治44年に御幸通り西側の細長く伸びた敷地に移設され(現在の地)、缶詰工場のほか、搗精工場や倉庫などを有するようになりました。

太平洋戦争が激化する中、昭和19年(1944)の終わりに機械の疎開が行われるまで、糧秣支廠での缶詰生産は続きました。

この建物は、広島市内に残る数少ない明治の近代洋風建築で、建築技術や意匠が優れていることなどから、昭和60年4月に広島市の重要有形文化財に指定され、5月に広島市郷土資料館として開館しました。

BUILDING OF THE MUSEUM FORMER UJINA ARMY PROVISIONS DEPOT

The building of Hiroshima City Museum of History and Traditional Craft was constructed as a cannery of Ujina Army Provisions Depot in 1911. It was the only Japanese army's canning plant in which beef seasoned with soy sauce was packed into a lot of cans. In the upper part of the entrance hall it was preserved that a part of steel framework bent by the blast of the atomic bomb.

In April of 1985, the building was designated as an Important Cultural Asset of Hiroshima City because it is one of Hiroshima's few remaining western-style buildings of the Meiji Era (1868-1912) displaying such excellence in design and structure.